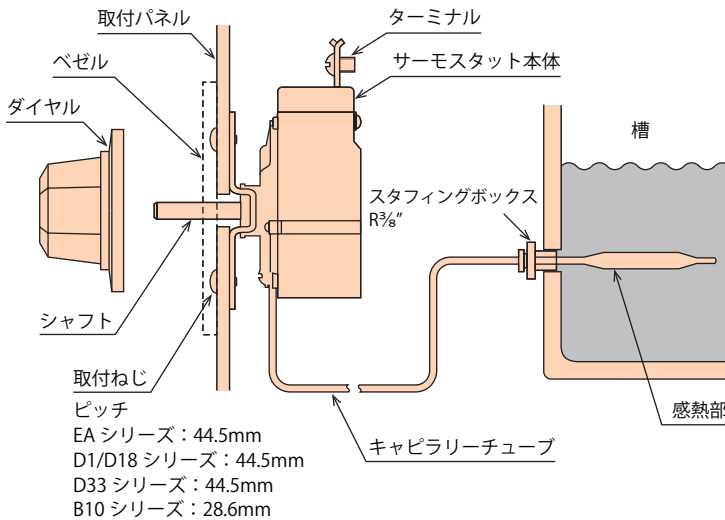


## 取付・設置方法



- 図のように、ターミナルを上にして取付ねじでパネルまたはケースに取付けてください。
- パネル板に取付けるシャフトの穴加工は、φ10程度の余裕をもった穴をあけてください。
- 感熱部が密閉された内部に入る時は、スタフingボックスをご使用ください。
- スタフingボックスを使用すると、キャピラリーチューブを任意の位置で固定できます。(スタフingボックスが付いていないサーモスタットには別売りにてご用意しております)
- EAシリーズ及びB10シリーズにもベゼル(化粧板)が取付けられます。

## 注意事項

- (1) サーマスタット本体は周囲の温度が 80°Cを超える場所には設置しないでください。
- (2) キャピラリーチューブはバーナーまたは発熱体からの熱が直接かからず、感熱部の温度以上に上がらないような方法で取付けてください。
- (3) 感熱部は温度測定雰囲気の中に全体を挿入してください。
- (4) サーマスタットはダイヤルに示されている最高温度以上の温度で使用しないでください。
- (5) 感熱部及びキャピラリーチューブは金属(銅、鉄、SUS)製であるため、有害な酸、腐食性の気体または物体中(液体または固体)では使用できませんので、対応する耐食性のある保護管を必要とします。
- (6) EAシリーズ及びD1/D18シリーズ、D33シリーズをパネル板に取付ける際は、シャフトぎりぎりではなくφ10程度の余裕のある穴をあけて取付けてください。  
MPAシリーズをパネルに取付ける際は、同機種のカatalogに掲載している通り(P.11)、シャフト取付穴φ7.5と、本体固定用穴として左右(または上下)センター振分けにてピッチ19mm位置にφ4.2の穴を2箇所あけてください。付属のねじ(M4×6L)で本体を固定してください。固定の際は裏面に印字しているTOPの文字を上側にしてください。
- (7) 感熱部は、つぶしたり曲げたりしないでください。
- (8) キャピラリーチューブは、つぶしたり鋭角に曲げたりしないでください。温度感知ができなくなり制御不能となり危険です。曲げ加工を行う際は、最小曲げ半径を25mm以上確保してください。曲げ加工は繰り返さないでください。
- (9) 電気定格はすべて交流電流で抵抗負荷の場合で規定しています。もし直流または誘導負荷の場合はご連絡ください。
- (10) 負荷が電球の場合は 1/10 以下の電流でご使用ください。